

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100394		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームなの花 東棟		
所在地	盛岡市仙北二丁目4番2号		
自己評価作成日	平成29年1月7日	評価結果市町村受理日	平成29年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lgvosvoQd=0390100394-00&PrEfQd=03&VerSiOnQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美味しい食事と健康な身体、楽しみのある生活は職員全員のモットーであり栄養バランスよく野菜と魚をふんだんに使った料理は利用者様方にも評判が良く食事を楽しみにされている。仙北公園は毎日の散歩コースとなっており整備された花壇や樹木から季節の変化を感じ散歩は楽しみの一つになっている。筋力低下予防の歩行運動や音楽体操は日課となっており成果を感じられる。JR仙北町駅前に位置し交通が便利である。仙北活動センター、産直、商店街等昔ながらの人情が感じられ地域のお祭り見学や資源回収の協力など顔が見える交流をしながら地域に支えられ求められるグループホームをめざしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

直ぐそばに仙北町駅、一つ隔てた道路にバス停と交通が便利で、近くに仙北公園、産直、商店街があり、立地条件が大変良い事業所である。また、建物が新しく、浴室にはドア付き介護浴槽があり、自動ホットタオルで排泄の都度に清拭できる等、ハード面が豊かである。地域のお祭りへの参加・見学や、資源回収の協力、町内が次年度目指しているきれいな街づくりの為に、公園の花壇作りにも参加予定であるなど、積極的に交流を行い、地域に支えられ求められるグループホームを目指し努力されている。日々の支援においても、利用者、家族の意見や意向を大切に、細やかなケアに努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議で理念を分析、理解し方向性を定め管理者、職員間で共有し理念は見やすいところに掲示し実践につなげている。	理念は、法人のグループホーム全てが同じであり、玄関に掲示しているほか、先月(12月)の会議では、日々のケアに活かせるよう、職員全員で確認し、理解、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仙北2丁目の町内会に加入し自治会長、町内会連合会会長、民生委員にも運営推進会議委員になって頂き地域の情報を得て廃品回収、お祭り等町内会の行事に参加している。又推進会議では花饅頭作り、手づくりパン等に参加して頂き利用者様方の状況をご理解いただいている。	去年5月に、利用者のエスケープがあり、自治会長にお手伝いいただいた縁もあり、7月に自治会に加入した。廃品回収、町内のお祭りに参加することや、マーチングバンドに来ていただいたり、事業所見学をしていく方も多数いて、推進会議を利用してパン、ピザ、花饅頭作りを一緒に行う等交流が良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設開所後近隣の多くの住民の方々が施設見学に来られ都度説明ご案内をしている。又体験入居を希望されそのまま入居に至った経緯もある。資源ごみの協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回会議を設け園の取り組みや現状を報告している。委員の提案により次年度はきれいな街作りの為花壇作りも予定している。又いつでも水素水が飲めるようコップを設置し利用者は自由に水素水を飲用している。	運営推進会議メンバーには、自治会長、町内会連合会会長がおり、町内の行事や目指している事を聞く機会が多く、また、意見、提案も頂いている。家族代表も順番に委員として参加頂き、事業所の取り組みや現状を報告している。非常災害時の避難経路についての意見を頂いたり、推進委員が駆けつける際の連絡の方法を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度について不明な点は市役所高齢福祉課・生活福祉第一、二課へ電話で相談指導を受けている。	介護認定の区分変更の際、市の担当者と話しをしたり、生活保護の方の手続き等で分からない事を相談している。運営推進会議の議事録は必ず見て頂くことや、市からのメールによる介護の情報を確認する等連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が高齢者権利擁護推進員要請研修会を受講している。利用者の人権を安全に守る為身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在拘束が必要な利用者はいない。	管理者が研修を受講し、各ユニット2名を代表として研修内容を伝達し、現在、其々のユニット全職員に伝達周知している最中である。施錠については、玄関は防犯の為に24時間施錠しているが、利用者の希望があれば開錠し、自由に外出して頂いている。家族の理解も得られている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が高齢者権利擁護推進員要請研修会を受講している。高齢者虐待防止ポスターを掲示し入浴時の身体観察、言動も含め虐待が見過ごされないよう些細な変化も見逃さないよう職員相互の連携を取り注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は市役所介護高齢福祉課へ相談、指導を頂いている。特に生活保護の方については生活福祉第1・第2課へ相談、報告をし連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は入居前に重要事項説明を十分に行い疑問不安等を解決していただき契約を行っている。改定時は書面で提示、問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員はご家族様2名が参加されており1名は常任、1名は交代で全ご家族が持ち回りで参加できるよう配慮している。随時状況報告をしご意見を頂いている。又広くご意見、ご要望を聞き入れるよう玄関にご意見箱を設置している。	家族には、面会時や電話以外に、運営推進委員として参加して頂き意見を募ったり、玄関に意見箱を設置している。今のところ、意見箱に意見が出されたことはない。エスケープがあった際、利用者家族からは様々な意見が出され、工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に疑問や意見は管理者が受けている。管理者は本社に報告相談し申し送り等で伝達し反映している。事務所に職員用のご意見・質問箱を設置している	法人の理事も毎日一緒にケアにあたっており、分からない事や気づいた事、新しい利用者さんの情報等を直接話して運営に反映させたり、申し送りノートを使って意見等を書き、職員皆で共有し取り組んでいる。その他、勤務についてや急な休み、個人的な事についても忌憚なく相談できる環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員はそれぞれに得意分野を活かしやりがいや評価を得られる環境を作っている。資格修得へのバックアップは積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格修得研修はシフトを調整する等参加しやすい環境を整えている。必要な資格は力量を把握し個々に声がけをしている。一般の研修会の情報等は掲示して提供している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会や盛岡市保健福祉部介護保険課、地域包括支援センター主催の勉強会に参加し勉強、交流を図りサービスの質向上に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの時点で取り巻く環境や心の状態をお聞きし事前に見学、体験入居をしていただき不安、疑問の解消に努めている。入居後は言動、行動、思いなどを職員間で共有しご家族とも連携を取り安心して頂けるよう統一したケアを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点でご家族の不安、疑問、要望をお聞きし利用者の支援が円滑にいくよう配慮している。個別援助計画、広報などで利用者の状況を報告し信頼関係が持てるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスは他職種とも連携を取り利用者の状況とサービス内容をご家族に説明し情報提供している。マッサージ、フードケアサービス等		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所の手伝い、クラフト作り等得意分野を活かし職員に指導して下さる等共に生活する意識を大切にしている。又相性の良い利用者同士棟を問わず居室を行き来し円滑な人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診をお願いしたり自宅外食や外出で心の安定を図って頂いている。ケプラン、モニタリング、広報で園での生活を紹介し共に情報共有をしている。些細なことでも情報交換をし共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆のお墓参りや年末年始の外出などご家族と共に出かけられている。親戚、知人、友人の面会は入居時ご家族から了解を得ている。電話を受け継いだり暑中見舞いや年賀状を出している。	家族や親戚、知人・友人等の面会があり、月に2～3回の方から、多い方で毎日の方もいる。馴染みの美容院や理容院に行っている方や、お墓参りや年末年始に帰られる利用者もいる。利用者全員に、年賀はがき、暑中見舞いを書いて頂き、馴染みの方々との関係が途切れないように支援している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を配慮し席替えで入居者相互の関係を改善している。両棟を自由に行き来しコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫に付き添い妻が仮入居されたが間もなく夫が入院退去となった。妻は正式入居となり夫の情報をお伺いしながらご家族との関係性は現在も続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の基礎情報を大切にし何気ない会話行動から思いを汲み取り統一した支援を提供している。家族にケアプラン、モニタリングを定期的に郵送している。状況により来園時や電話で相談をしご家族の思いや意向を大切にしている。	希望や意向は、入浴介助の際に多く聞かれ、例として、「ご飯が少ない、もっと食べたい」等があり、希望等があった場合は、各ユニットの申し送りノートに記載し、皆で共有している。また、介護計画の作成、モニタリングの際に、皆で意見を出し合って計画を作成しているほか、家族に郵送や電話、面会時に意見を頂き、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時利用者の基礎情報を大切にしている。日常の会話からも生活歴を汲み取り、ご家族からの情報も職員間で共有、周知し統一した支援を提供している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを大切にしている。不安になる要因や時間帯を職員間で共有しつつ穏やかな生活が保てるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	4か月毎にケース会議を行いケアプラン、モニタリングを郵送している。その際家族の面会時にご意見、ご意向を伺いプランに反映できるよう努力している。プランはご家族の承認を得て実行している。	介護計画の作成やモニタリングの際は、必ず、家族に郵送し意見を頂いている。また、面会時や電話で意見、意向を伺いながら、ご本人の“今”を大切に、職員皆でケース会議等を通して検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別生活日誌で日々の生活の様子を記録し情報を共有ケース会議で検討。ケース計画の見直しをしている。日常的に申し送りノートを活用。朝の申し送りで伝達し情報の共有に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も視野に置き現状を把握し事業所ができることを柔軟に対応している。必要があれば市役所、地域包括支援センター、協力医にも相談し必要な情報を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仙北2丁目夏祭り、花火鑑賞、秋の芸術祭マーチングバンド見学、資源ごみ出しの協力。職員と共に産直で買い物、美容院利用、おやつを御餅さんで購入等地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される場合は協力医に訪問診療を依頼している。ご家族のご意向で主治医をご家族対応で受診している方もいる。主治医は変えないが通院が難しい方には園が対応している。風邪などの場合は協力医受診を園が対応する場合もある。	現在、かかりつけ医を利用されている方は6名で、他の12名は協力医を利用している。かかりつけ医受診の際は、必要時バイタル表や日々の状態経過を手紙に書いてお渡しし、受診して頂いている。家族が対応している方は3名で、受診結果は電話にてお聞きし、皆で共有を図っている。歯科も訪問診療、家族対応で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が在職しない為症状の変化等は協力医に電話で相談し指導を頂いている。主治医が協力医で無い場合はご家族に報告し了解を得て主治医に連絡相談し適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当者、ご家族と連携を取り必要な物を届けたり必要であれば毎日訪問するなど協力体制を取り早期退院に向け支援をしている。退院後は協力医、主治医に報告をし症状の変化に注意している。又サマリーを活用し疑問、不安などは病院へ報告し指導を受けるなど連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に指針が記載されており説明している。医師が終末期と判断された時本人の意思を最大限に尊重し対応可能な範囲を含め担当者会議を行い本人に一番良い方向を検討していく。又終末期における対応について早い段階で家族の意向を把握し方向性を定め連携を取ながら支援している。	入居時に、本人と家族に重度化した場合と看取りの指針を説明し、その際に、医療行為が出来ない為看取りは難しい事を口頭で伝えている。また、医師が終末期と判断した場合、ご本人の意向を尊重し対応可能な範囲を含め、担当者会議を実施し方向性を決めている。今迄に看取りはなく、入居して直ぐに急変し入院をされた方がいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園のマニュアルを作成し職員間で共有している。搬送の仕方、けがの応急処置等自主訓練を行い危機管理意識を高めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	盛岡南消防署仙北出張所の立会で年2回夜間想定避難訓練を行っている。自然災害にそなえ本社からの応援部隊、避難場所、避難経路等マニュアルを作成し訓練を行っている。防災備品を備え自家発電を設置している	消防立ち合いの下、年2回の定期訓練を利用者、職員で行い、消火器の作動訓練も、消防の指導により実施している。また、自主訓練として、夜の8時にヘルメットを装着して車いすで逃げる訓練も実施している。自家発電機や備蓄も揃えている。水害など自然災害については、推進会議でアドバイスを頂き、避難の経路や避難場所、本社からの応援など、綿密にマニュアルを作成し訓練を行っているが、周囲に避難できる高い建物がないため、現在検討中である。近隣はアパートが多く、支援を求めづらい現状である。	当事業所は水害の起こりやすい場所であるため、高い建物に避難できる対策を実現できるように、早めの検討を期待したい。また、近隣のアパートの方々からも応援いただいたり、お互いに支援し合えるよう、声掛けなどにより関係構築に努める事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を大切に自尊心を傷つけることの無い様礼儀を守りつつ親しみが持てるような柔らかい言葉かけを工夫している。	認知症の症状として、何度も同じ事を尋ねてきた時にどう答えるか、また、どう声掛けするかを気をつけている。また、排泄の際の誘導や入浴の声掛けをする時も、自尊心を傷つけないように、その方に合わせた声掛けや言葉掛けを工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が難しい利用者には日常の行動や会話から汲み取り職員が端的な言葉で表現する事で自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしている。歩行運動、音楽体操時間以外は平屋の利点が生かされユニットを自由に行き来し馴染みの利用者同士塗り絵やカラオケ、それぞれの居室訪問を楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に福祉床屋を利用している。希望により近隣の美容院を利用しパーマやヘヤダイを楽しんでいる方々もおられる。爪切り、耳掃除は定期的に行い季節に合った洋服も自ら選ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きは日常にお手伝いをして頂いている。季節の物、旬の物を提供するようにして月に1回の鮭の日は楽しみにしている。個人の好みに合わせ代替えや味付けに工夫をし喜んで召し上がって頂いている。	献立は本社で作成し、栄養面を考えた献立を提供している。また、お正月やお雛様等の行事食も自然に組み込まれ、旬の物を提供しているほか、毎月1回の寿司の日には、上寿司を提供している。食事の片付けは、1名の方が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	軟らかくなる物は一口大に切り噛みきれるように調理。噛みきれない物は細かく食べやすいように工夫を凝らしている。食事は毎食後チェックし旬の食材で栄養バランスのとれたメニューを提供している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きと園提供のうがい薬でうがいを支援している。義歯は夜間、義歯洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。義歯洗浄カップ、歯磨きコップも洗浄消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄できるよう自尊心を傷つけないよう毎食前と食事後のトイレ使用の声かけをし必要な方は誘導している。排泄チェック表を付けており定期的な声かけで失禁を回避し自信をもって頂いている。ウォシュレットやホットタオル陰部清拭で清潔保持に努めている。	自尊心を傷つけないよう配慮しながら、トイレ誘導の声掛けを行っている。排泄チェック表を見ながら声かけを行い、現在、布パンツにバット利用の方が11名で、7名の方がリハビリパンツ、夜間は1名がポータブルトイレを使用している。排泄毎にホットタオルで陰部清拭をし、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物を多く提供している。歩行運動や音楽体操で便秘の予防に繋げている。排便チェック表を付けており便秘症の方は医師の処方により漢方薬・整腸剤を服用している方もいる。毎日の水素水、カフェオレの水分補給も提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前の準備は職員と一緒にいき入浴は職員とのコミュニケーションの場にもなっておりゆったりと過ごして頂いている。入浴の無い日は就寝前にホットタオルをお渡しし清拭し気持ちよく休んで頂いている。	週2~3回、午後1時半頃からの入浴が常であるが、毎日入浴する方もいる。入浴を嫌がる方には、「足浴しましょう」と声掛けを工夫することで、現在は入浴されている。ドア付き浴槽があり、入浴の際に足上げ等が難しい方3名が利用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前は安心して休んで頂けるような声かけをしている。テレビやラジオを聞きながら入眠され消し忘れの場合は職員が消す等その方に合わせ安眠できるよう支援している。足上、枕元を高くしている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病状を把握しお薬説明書は申し送りに提示し全員が把握できるようにしている。処方薬は鍵のついたキャビネットに保管し夜勤者が配薬順番が確認し間違いがないようにしている。服薬介助時は本人に名前を見て頂き名前を音読し職員が複数で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等できる場所はお手伝いをして頂いている。ピザ作り、手作りパン、花饅頭作り、音楽会やマジシャン鑑賞等、つるし雛作りを楽しまれている。塗り絵は入居当初より確実に上達している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣や馴染みの美容院への送迎支援。近隣の産直や御餅屋さんへの買い物。気候の良い季節は毎日仙北公園へ散歩が日課になっている。ご家族が通院や食事にお連れする方もいる。田園デイサービスを週1回利用される方も2名おられる。職員の果樹園にリンゴ狩りに行き大喜びされた経緯もある。	気候の良い時は、仙北公園へ毎日散歩に出掛けている。また、おやつにお餅が食べたいとの希望により、お餅屋さんへ買い物に出掛けたり、近隣にある産直「さっくら」に出掛けている。田園デイサービスに週1回通われている方もいる。職員の果樹園にリンゴ狩りに行き、大変喜ばれたり、田園デイサービスの利用者と一緒に昼食を食べ、その後紅葉を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は預からないが本人、家族の希望で所持金を持っている方もいる。時々スーパー、産直に買い物支援をし現金で支払う達成感も得ている。大方の利用者は園で立て替え払いで買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を書いて家族に送っている。電話は希望があれば都度対応している。携帯電話でやり取りしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く天窓から太陽が射しこみ白い壁が一層広い空間を生み出している。数か所に飾られた岩手山のパネルは広大な自然を感じさせている。ホールにはピアノが配置され自由に弾く事が出来る。全館パネルヒーターを設置し廊下とホールに設置したエアコンで冬は暖かく、夏は涼しく温度調整をしている。	共用のスペースは、東棟と南棟の中間にあり、其々のユニットへの行き来が自由である。天井は、吹き抜けで明るく、張り出した木の天井に蛍光灯が嵌められている。壁には、岩手山の大きなパネルが飾られ、ホールにはアップライトピアノが置かれている。木製のダイニングテーブルに座り、テレビを見たり話したりしてゆったりと過ごしている。小さい畳の小上がりも印象的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットを自由に行き来し東棟の円卓で馴染みの利用者同士塗り絵やカラオケを楽しんでいる。南棟のホールではトランプを行う等目的に合わせ移動している。又それぞれ自由に居室訪問を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとチェスト、ギャッチアップベッドが備えつけているが使い慣れた家具やテレビ等を設置している方もいる。壁に家族と一緒にの写真や本人の塗り絵の自信作、クラフトを飾り満足して頂いている。ご家族からのカードやプレゼント、お花など飾り安心して頂けるよう工夫している。	引き戸の木製ダンスとクローゼット、ギャッチアップベッド、ソーラーパネルが備え付けである。入り口の引き戸ドアには、名前と本人の写真、行事の際の写真が貼られ、手作りの物も飾られて目印になっている。自身のダンスや人形、位牌等が持ち込まれ、家族との写真やクラフトが壁に貼られ、シンプルで居心地の良い空間となっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームなの花(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは絵で表示をしている。洗面所はドアが無くセンサーで電気がつくため分かりやすく個人の洗面台は名前を明記している。居室ドアには本人と家族の写真やクラフトを張っており目印になり不安なく過ごせるよう工夫している。		